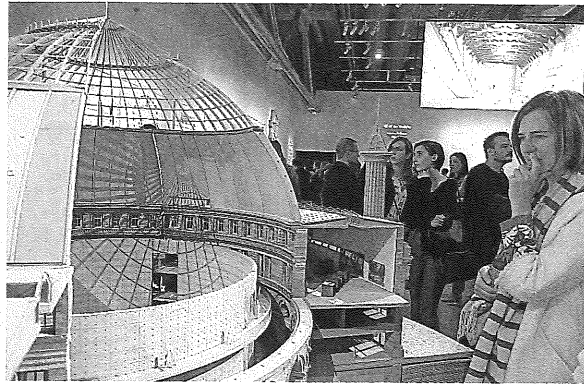


## アート

## 安藤忠雄「青春」の躍動



安藤忠雄展の内覧会には多くの人々が押し寄せた。手前は、ブルス・ドゥ・コメルスの模型=10月、パリ

建築家・安藤忠雄(77)の躍動が、内外で続いている。パリのポンピドゥー・センターでは大回顧展が開催中で、地元・関西では文化施設を自身の設計事務所が負担で建設し、自治体に寄付する試みを続けている。近年よく言及する「青春」そのものの活動ぶりだ。

## パリで大回顧展 注目集める

仮設壁に切り込まれた三角や四角のスリットから光が差し込み、その前には列柱が配されている。

パリの「安藤忠雄 挑戦」展(31日まで)は、昨年東京で開かれた大回顧展と同様、模型や図面、映像を通じ、打ち放しコンクリートの壁を使いながら自然環境や歴史を取り込むような、安藤の建築と思想を多角的に伝える。

出品作も東京展と重なるが、より詩的な気配が漂い、見る人の身体を包み込むようになっていく。

「我々は、東洋の柱と西洋の壁を使って、建築を設計してきた。両者の文化がぶつかり、交流するような展示を目指した」と安藤が語れば、展覧会を担当したフレデリック・ミゲール同センター副館長は、「光の効果でミステリアスな展示ができた。それは、身体と感情に訴えかける、すべての安藤建築に通じる」と指摘する。

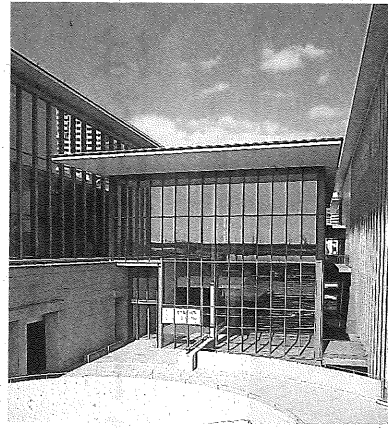
「建築は体感するもの」と考える安藤は今回、代表作の一つ「光の教会」(1989年、大阪府)の外壁を再現。メカニカルなセンターのデザインを背に、噴水やカフェといった現代都市のにぎわいと向き合う禁欲的かつ武骨なグレーの壁。ここでも多様な文化やデザイン潮流の共存がみとれる。

「コンピュータでの設計が広がる今、世界中の建築が平準化しているが、本来はもっとザラザラとひっかきのあるもので、そういう建築を造り

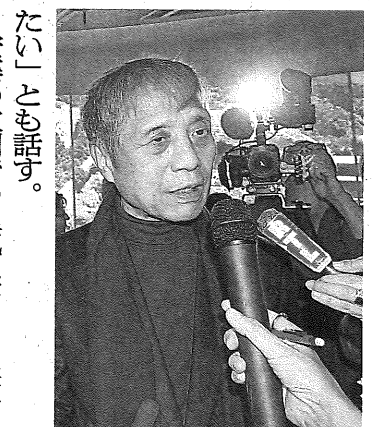
## 「文化のため」関西で施設寄贈

一方、安藤設計の神戸市の兵庫県立美術館(2002年開館)では、展示棟と展示棟の間に小ぶりの展示棟「Ando Gallery」が8月末に完成した。自身で設計を手がけ、約5億円の建設費は安藤忠雄建築研究所が負担し寄贈した。

外観は既存の棟と連続させつつ、美術館建設時の外壁を内部に取り込むな



兵庫県立美術館に完成した展示棟



報道内覧会でメディアに囲まれる

たい」とも話す。

安藤の欧州での人気は高く、報道内覧会では多くのメディアが安藤を質問攻めに。開幕直後にスイスやポルトガルからやってきた鑑賞者の姿も見られた。

同センター近くでは、19世紀のドーム状の穀物取引所「ブルス・ドゥ・コムルス」の内部にコンクリートの円環状の壁を造り、現代美術館として再生させるプロジェクトも進行中だ。

大阪・中之島では、子ども向け図書館「こども本の森 中之島」(仮称)が建設中だ。これも自身の設計で建設費は安藤忠雄建築研究所で負担し、完成後に大阪市に寄贈する予定だ。

安藤は「会社にお金をため込んでいても、文化にはつながらない。よくやるなあ、という部分がないと建築はダメ。そしてその建築を体感してほしい」と話す。

パリの展覧会の入り口に、青春の象徴として青リンゴのオブジェを置いている。「米国の詩人サムエル・ウルマンの詩にあるように、何歳になっても心の持ちようで青春なんです。私も生きていく限り、挑戦を続けたい」

(編集委員・大西哲人)

◆安藤忠雄講演会 1月11日14時半、大阪市中央区大手前3丁目の大阪国際がんセンター。大阪成人病予防協会主催。安藤忠雄さんが「人生100年。青春を生きる」をテーマに講演。200人。無料。住所、氏名、年齢、性別、電話番号、人数を記し、大阪成人病予防協会(06・4791・2071)へファクス(06・4791・2091)かメール(kyoukai@osyk.jp)。